

滋賀県希望が丘文化公園活性化等検討懇話会第2回会議 議事概要

- 1 日 時 平成31年2月8日（金）15:00～16:50
- 2 場 所 滋賀県庁本館2階 第3委員会室
- 3 出席者 委 員：一ノ本委員、北辺委員、平田委員、山本委員
 （欠席：菊池委員、黒澤委員）
 事務局：田原文化振興課長、野瀬参事、安井課長補佐ほか
- 4 議 題
 - （1）参考事例の報告について
 - （2）活性化等の検討にかかる論点整理について
 - （3）意見交換
- 5 会議概要 以下のとおり

事務局	<p>（1）参考事例の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料1、2、3により報告
委 員	<p>有馬富士公園は希望が丘文化公園と立地がわりと似ており、有馬富士公園の最寄りの新三田駅までは福知山線で大阪から50分程なので、こちらで言うと草津の手前くらいの距離感となる。有馬富士公園も希望が丘も、郷土富士の麓に広がる丘陵地の環境を活かして公園を作っている。</p> <p>もう一つは、三田は兵庫県がニュータウン開発をした地域であり、多くの人が電車で大阪や神戸まで通っている。逆に言えば、昔からの人ではなく新住民の方が多く、そういった意味でも似ている。</p> <p>一方、希望が丘と似ていないのは、指定管理事業として市民を巻き込んだ色々なプログラムが展開されており、また、兵庫県立人と自然の博物館のスタッフが積極的に関わって市民とともに活動している点である。</p> <p>沼津市の取組については、社会教育施設から都市公園の施設に変わることによって、施設の雰囲気やテイストが全然変わってくるということだと思う。</p>
委 員	<p>一番目の事例については、日帰りでちょっと遊びに行く距離でお客様が来て頂ける距離感というのは、車で30分程かなという気がする。車で30分圏内にどれだけのマーケットがあるのか、というのが問題となるのではないかと。</p> <p>二番目の事例については、非常にお洒落な施設にリノベーションされましたが、あの方向に向かうのであれば今ある機能は捨てるのか、という所は腹を括らないといけないだろうという印象を受けた。</p> <p>三番目の事例については、他自治体の自然の家では指定管理で年間数十本</p>

<p>委員</p>	<p>の主催事業をやっており、万の単位で人を集めている。そういう問題ではないのかも知れないが、参加費 6,000 円で参加者 60 人なので 36 万円の収入となるが、関わったスタッフの数や日当を考えると、その主催事業はどうか、と思う部分はある。</p> <p>三番目の事例の冬の林間スクールで大事だと思う所がいくつかあり、希望が丘のキャンプリーダーがグループのリーダーをされていたが、県民の中から青少年のリーダーとなる若者を育てており、見えないところではあるが大事だと思う。</p> <p>社会教育施設としての要素も大事にしていきながら、その上にオンする形で沼津市や有馬富士公園などの取組が参考になるのかも知れない。</p>
<p>委員</p>	<p>少し補足すると、(先ほど例に出した) 他自治体の自然の家にもジュニアリーダー組織があり、その中から小学校の先生になる人も多い。ジュニアリーダー経験者が教員となって、自然の家に引率として来られることもよくある。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 活性化等の検討にかかる論点整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料 4 により説明 <p>(3) 意見交換</p>
<p>委員</p>	<p>これからの方向性ということで、有馬富士公園は色々な方々が関わっておられて皆で作りに上げておられるが、滋賀県内でも子供達の体験活動のプログラムを持っておられる企業がいくつかあると思う。ここへ行けばこういう体験ができるというプログラムを持っている企業、事業所の方々に文化ゾーンを使って貰えるよう声をかけるなど、少し冒険的ではあるが、そういったところから新たな方向性が見えてくるのかも知れないという印象を受けた。</p> <p>あとは青年リーダーの育成について、先ほどからこだわっていますが、これも大事なことなので、続けていくことが求められているのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>一つは、どのあたりの利用が徐々に減っているのかを考えると、少子化の影響もあるかと思うが、やはり滋賀県で行事を制度化して 5 年生は必ず 2 泊するとか、そのようなルールができないと難しいかと思う。</p> <p>もう一つは、希望が丘の多様化というか、もっと色々なことができるようにして、学校に選んで貰えるようにするというのが必要かと思うし、その指導体制についても先生方は日常で忙しいので、行事の準備に何十時間もかか</p>

委員	<p>るとなると「とても対応できない」ということになると思うので、先生方が「こういうことやりたい」と言って、子供たちのお守りさえすれば、行事は施設の人にやって貰える体制にすればいいのかなと思う。</p> <p>県として制度化するのであれば、県内の学校が行事をすることに対して補助する仕組みを作ったうえで、利用料金については大幅に引き上げたらいいと思う。施設の運営に補助するのではなく、行事をすることに対して補助ができるような仕組みがあると、行事をやるインセンティブにもなるので、そういう仕組みが必要かなと思う。</p> <p>他の自治体で4泊5日の自然学校を行っているが、子供達の負担は食費だけとなっている。宿泊費やバス代の補助が出るので、公共施設を使えば親御さんの負担は6千円程、民間施設でも1万円程なので全校実施が成立している。施設を維持していくためにお金を出すのではなくて、利用する人に恩恵があるような仕組みに変えた方が良くと思う。</p> <p>県外からお客さんを引っ張ってくるなら、旅行代理店がクーポンを切れるようにしないと売ってくれないので、そうした意味でも単価を上げることは必要かと思っており、そのようにした方が、値段を上げられて収入も多く得られるうえに、集客もできるのではないかな。</p> <p>あと、実際に視察をして、管理面積が広すぎて職員の皆さんは施設を維持するので手一杯だろうと思った。青年の城はしっかりリノベーションして今風のものにして、例えば野外活動センターは、沼津市の事例のような使い方に全て任せてしまうというのもありなのかな、と少し思いました。</p> <p>もう一つ必要なのは、学校などにもっと来てもらおうとすると、キラーコンテンツが必要だと思う。カヤックやマウンテンバイクのほか、アルプスアドベンチャー、フォレストアドベンチャー、EXアドベンチャー、ジップラインなどあるが、安全確保が一番重要となる。</p> <p>新しいキラーコンテンツを3～5年くらいでタイミングよく導入して、ほとんどの学校が皆でそれをやって楽しいというのが無いといけないなと思う。また、そういうのがあると、週末等で学校が来ないときに、いわゆる日帰り利用の促進ができるのではないかな。</p> <p>そういう風にしていけば、全然やっていけるというか、良くなるのではないかなと思う。</p> <p>ハード面ではかなりのことをする必要があるかと思うが、ソフト面でも実際に色々なプログラムの運営をされている中で、関係団体へのアピールや、協働・連携にもっと力を入れていく必要があるのかなと思っている。</p> <p>ボーイスカウトやガールスカウト、県スポーツ協会、総合型地域スポーツ</p>
----	--

委員

クラブ、スポ小、各市町のスポーツ協会など色々な団体があり、子供達の支援活動等をしているので、その中のプログラム、イベントに組み込んでいくというのは非常にいいかなと思う。

多分、文化ゾーンがどういう所なのか知らない方も多いと思うので、その辺りで協働できるような部分もあるのではないかな。既存のプログラムでも、ポテンシャルを見つけることが可能かなとも思います。

三田市周辺は平成のはじめ頃に開発され、あっという間に人口が3万人から10万人に増え、アーバンネットワークとして福知山線に通勤電車が数多く走ようになった。人口が増えてよかったと言われていたが、阪神淡路大震災が起こって、結局その時に、寝に帰るだけの場所でいいのかという議論があり、ボランティアとか共生にみんな目が覚めた。有馬富士公園もその一つのモデルになり、夢プログラムなど新住民を巻き込んで、ベッドタウンではなくてふるさとになる、という風にしていかないといけないと気付かされた。

滋賀県も若い世代が沢山転入してきて、これから第2名神の整備で四日市や高槻と繋がるだろうし、東京オリンピックではクライミングやボルダリングも含まれるので、競技場で走るだけがスポーツじゃないという意識改革が起こるかもしれない。成熟した落ち着いたことをきちんとやっていくことを目指す時代がくるのではないかな。

もちろん経営を成り立たせるようにしなければならないが、人数が来ればいいのかという以前に、公共施設としてどういう役割、機能を果たすべきなのかを考えると、草津や野洲に転入してきた人が、ふるさと滋賀というふうに思ってもらえるような意識を定着、醸成するという機能もあるのではないかなと思う。例えば転入してきた30代の人達が、生活をして子供が巣立った後に、京都あたりのタワーマンションに帰られたら困るのではないかな。そうすると、もちろん次世代もそうなのですが、40代以降の人達もやっぱりこれからの大きなターゲット、マーケットなのではないかなという気がする。

有馬富士公園は県土整備部、いわゆる土木部がやっている施設なので教育という意識はあまりない。地元の人を含めて、ファミリーに楽しんで貰うという目的意識でやっているのだから、あのような感じになっているのではないかな。次世代の育成も大切ですが、少子化で逆に中高年は増えていくので、そのマーケットをどう捉えて、どう取っていくかということも、大事なのではないかなという気がする。

希望が丘の周辺には近江富士花緑公園やアウトレットパークのほか、銅鐸記念公園など歴史的なものもあり、滋賀県は新しいものと古いものが渾然一体としているようなところがある。そういうものを融合した、新しいものが

	<p>あるけど古いものもちゃんとあるという、新しいライフスタイルやイメージを作り上げていく起点として、この公園だけでなく周りも含めたエリア一体でそういう役割を発揮して、新しく転入してきた人たちも、ふるさと滋賀というイメージ、愛着とか誇りとかを持ってもらえるよう、公園はその拠点にしていけるようなことができないかと思う。</p> <p>この公園の中だけで考えるのではなく、周辺施設等との役割分担、連携、住み分けをどうしていくのかという視点から、このエリアが発揮できる役割を考えてみるのもいいかと思う。そうすると、文化ゾーンとスポーツゾーンの真ん中の野外活動ゾーンは結構広いので、ここの新しい使い方が今後のキーになるのではないかという印象を受けました。新しいものと古いものが融合している、ある意味最先端のライフスタイルを実現できているところなのかなという感じもするので、そういうところを是非やってもらって、転入してきた人みんなに、ふるさと滋賀という意識を持って貰える拠点となるような考え方ができたらと思う。</p>
事務局	<p>野外活動ゾーンについて、例えばエリアを分けて利用する可能性についてはどのようにお考えか。</p>
委員	<p>青年の城の宿泊でどの辺りまで野外活動ゾーンのエリアを使われているのか分かりませんが、ここまでは使わないというところがあれば、そこは切り離して全て任せてしまうというのものもあるのかもしれないと思う。</p> <p>公園敷地の全部を管理して草刈り等していたら、日常業務が大変だと思う。</p> <p>沼津市の例のような施設を造れば繁盛するかというと、そうではなく、凄くロケーションが大事だと思う。人が密集して住んでいるところ以外でやる時は、本当に大事。滋賀県にはグランピング施設が沢山できましたけど、調べて頂いたら分かると思うが、最近始めたところの収支は厳しいのではないかな。</p> <p>目の前がびわ湖であればロケーションで負けはしないが、山の中でそれがどこまで戦えるかと言うと、少し心配なところがある。グランピング風だけでも、リーズナブルに泊まれるとか、そういう風にしていけばいいのかもしれないが、そもそもグランピングがまだいけるのかというと、一度施設を造っても3～5年でまずダメになってしまう。余所に新しいのもできるので、そういうものをキャッチしながらやっていかないと、続かないのではないかな。</p>
事務局	<p>青年リーダーを育てる取組については、県内で希望が丘以外で同様の取組をしている施設はあるのか。</p>

<p>委員</p>	<p>以前、彦根の荒神山に県立少年自然の家があった頃はリーダー養成事業をやっていたが、今では所管が彦根市に変わったので、県立の青少年施設としては希望が丘がいちばん大規模なところだと思う。</p> <p>キャンプに参加した子供たちが、その青年リーダーに憧れて、その子供たちが順番にリーダーになるというサイクルができると一番いい。地元で子供体験キャンプ事業をやっているが、そこで子供たちがサブリーダー、リーダーになるというサイクルがやっと回りだしたところで、なかなか上手くいくとは限らない。</p> <p>滋賀県はボランティア活動に熱心な県民であるという報告もあり、そこに甘えてしまうと上手く回らない部分もあるが、新しいものを生み出すというよりも、ボランティアとか今あるものを繋いでいく。周辺の施設や企業など既にあるものを繋いでいく、コーディネートするという発想で活性化できればいいかなと思う。</p> <p>活性化のキーワードとして、「ふらっと来園して欲しい」というのがありましたが、ふらっと来園するには何か惹きつけるものがあるのではないかな。その中でもちょっとどうかと思うのが駐車場の問題。ふらっと来て駐車料金が500円取られて、何もないということでは、たぶん次から来ないということになるのではないかな。</p> <p>小学校の利用数がかなり少ないと思うのですが、うみの子、やまの子、田んぼの子、小学校は結構行くところが多くて忙しい。そういった理由でたぶん小学校の利用が少ないのではないかな、中学校はリーダー養成や学級づくりで来られるのだと思うのですが。そのあたり、なにか繋いでいくものを見つけるとい作業が必要なかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>他府県では企業の森という制度があつて、鉄鋼業など水を使う企業の多い地域では水源涵養の森を守ろうということで、企業と協定を結んでエリアを使えるようにして、その代わり管理費を出して貰うとか、職員組合に管理して貰うとかしており、また、職員のレクリエーションや定年後に向けてのボランティアの第一歩にもなっている。</p> <p>これからはファミリーで訪れるパターンも、もっと増やすべきではないかなと思う。学校で来て貰った方が確実だが、それだけではなく、ファミリーや子供が巣立った後の世代を含めて、いかに末永く来てもらえるような仕組み、施設、プログラムを考えるかが必要かもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>企業へのアプローチということですが、野洲市には大きな事業所が複数あ</p>

座 長	<p>り、社員の運動会など熱心にされている。そういう事業所にアプローチして、「こういうことができますよ、なにかお手伝いすることありませんか」というアプローチもできるのではないかと。また、コラボレーションとしては、例えば地域のコミュニティセンターや小学校が、一泊二日で近江富士、三上山に登って琵琶湖のマリーナで遊ぶとか、そういうイベントをやっていたりするので、その中に組み込むなど、まだまだポテンシャルはあると思う。どういう事業ができるか、実際今まで利用された団体にアンケートを取られているかと思うが、もっとこういうことをして欲しいというところから広めていってもいいかと思う。</p> <p>色々な意見が出てまとめが難しいかと思いますが、事務局には、次回に向けて準備をして頂きたいと思います。</p> <p>(以 上)</p>
-----	--